



産業廃棄物処理計画書

R7 年 5 月 28 日

長野県知事 様

提出者
住 所 愛知県名古屋市中区錦一丁目18番22号
名古屋ATビル9階
(法人にあっては、主たる事業所の所在地)
氏 名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
代表取締役 関谷 富彦
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 052-218-6730

廃棄物の適正な処理の確保に関する条例第55条第1項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 飯田事業所
事業場の所在地	飯田市北方 869
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	建設業
②事業の規模	3,100,936(千円)(令和6年度売上高)
③従業員数	111名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	発生源 工事施工現場 → 廃棄物 アスファルトガラ がれき類 → 処分 《委託》 最終処理 (破碎・再資源)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		別紙1のとおり	
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量		t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 構造物取壊し作業時に、廃棄物への土砂等の混入をできるだけ少なくする。 ・ 搬入資材は、余剰材料が出来るだけ少なくなるよう、現場を精査し出荷数量を指示する。			
②計画	【目標】		別紙1のとおり	
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量		t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 廃棄物発生量が少ない工法の情報収集に努め、工事発注者に対して廃棄物発生量の少ない工法の選択について提案する。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ がれき類 ・ 工事施工現場において発生するがれき類には、土砂等の混入を出来るだけ避けるよう作業手順・施工方法を工夫する。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 建設混合廃棄物 ・ 施工現場で収集した空缶・木くず等の廃棄物は、種類ごとに分別し廃棄物の量を出来るだけ少なくする。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 該当無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 該当無し		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 該当無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 該当無し		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 該当無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 該当無し		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 産業廃棄物を適正に最終処分できる処理業者に処理委託する。		

【目標】		別紙1のとおり	
②計画	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	当社が排出する産業廃棄物の大部分を占めるアスファルトガラ等のがれき類は、再生土木資材として100%リサイクルされている。工事現場から発生する建設混合廃棄物は、発生時に種類ごと分別し総量を出来るだけ少なくする。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上1,000トン未満の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

令和 7 年度産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

実績：前年度産業廃棄物排出量

計画：当年度産業廃棄物排出量の目標値

単位：t

産業廃棄物の種類	総排出量	自らの再生利用を行った（行う）量				自らの中間処理を行った（行う）量				自らの埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量				全処理委託量				処理の委託				認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量			
		②+③		⑤		⑦		③+⑤		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭		⑮		⑯		⑰	
		実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画
産業廃棄物の種類	自らの直接再生利用した品等を含めた事業場における産業廃棄物の合計量	0.00	0.00																						
1 燃え殻		0.00	0.00																						
2 汚泥		16.08	16.08																						
3 廃油		0.61	0.61																						
4 廃酸		0.00	0.00																						
5 廃アルカリ		0.00	0.00																						
6 廃プラスチック類		20.02	20.02																						
1 紙くず		0.00	0.00																						
2 木くず		0.99	0.99																						
3 繊維くず		0.00	0.00																						
4 動植物性残さ		0.00	0.00																						
5 ゴムくず		0.00	0.00																						
6 金属くず		1.37	1.37																						
7 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		0.61	0.61																						
8 鉄くず		0	0																						
9 がれき類		742.64	742.64																						
10 家畜ふん尿		0	0																						
11 家畜の死体		0	0																						
12 動物系固形不要物		0	0																						
13 ばいじん		0	0																						
14 処分するために処理したもの		0	0																						
建設混合廃棄物		23.73	23.73																						
蛍光灯・乾電池		0	0																						
合 計		806.05	806.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※ 総排出量＝自らの再生利用を行った（行う）量＋自らの中間処理により減量した（する）量＋自らの埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量＋全処理委託量

【記載方法】

- ・各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の左に前年度の実績（現状）を右に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- ・「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入し、右欄にそれぞれの内訳を記載してください。
- ・「自らの再生利用を行った（行う）量」の欄は、自らの直接再生利用した量と自らの中間処理した量を記載してください。
- ・「自らの埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量」は、自らの直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自らの中間処理した量と自らの埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。